

『東京消防庁 単年度問題集 2023年(5月14日実施)』(KU23604)

訂正表

2024年07月09日現在

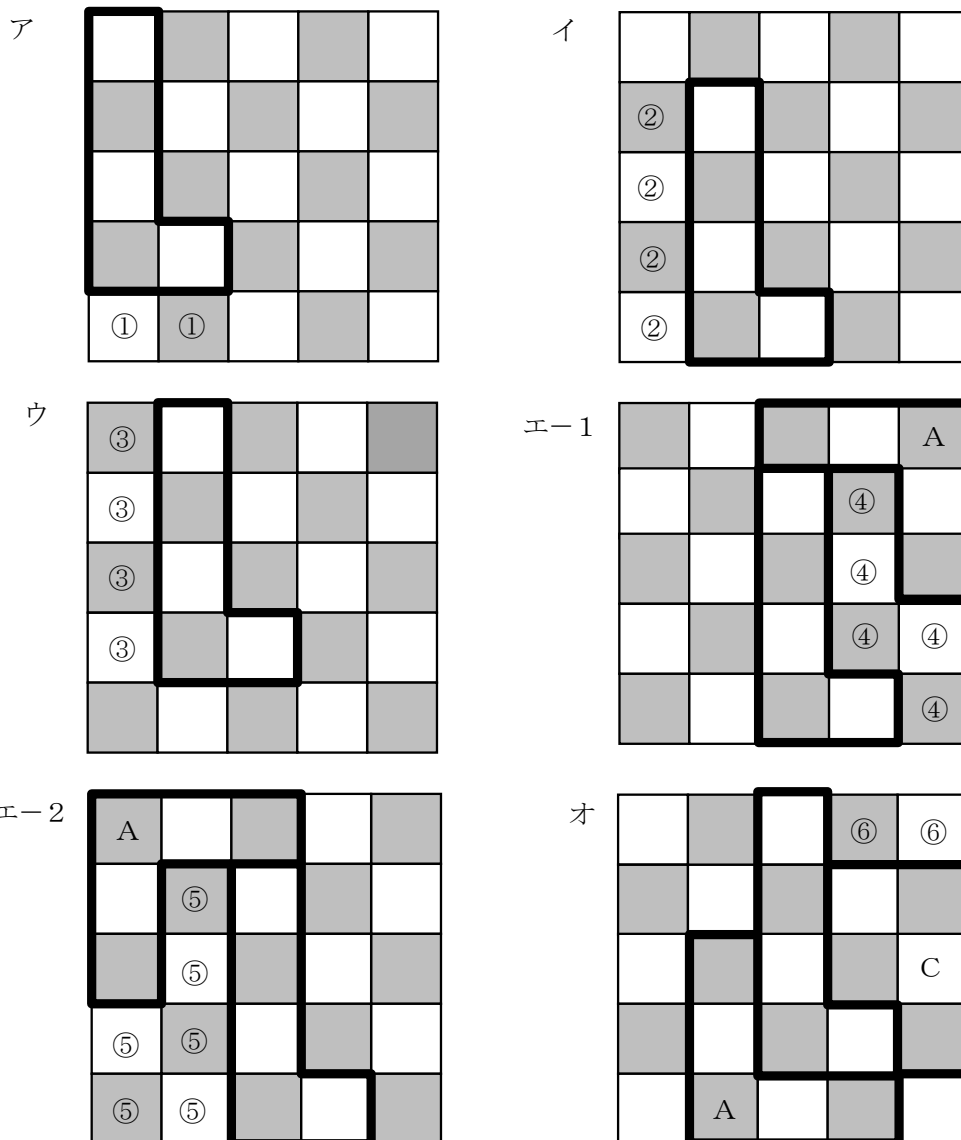
ページ	訂正箇所	訂正内容		掲載日
P.38	6行目と7行目の間	誤	[No. 15] の解説全文欠落	2024/07/09
		正	本訂正表に添付されているP.1~P.3の内容を追加	

※「掲載日」は、上掲訂正情報がLEC公務員ホームページの『テキスト改訂・訂正情報』(<http://www.lec-jp.com/koumuin/info/teisei/>)に掲載された日付です。

[No. 15] <判断推理/平面図形の分割・構成> 正解 4

5種類の図形からできる市松模様は5×5の正方形から構成される。

A～Cのうち一辺の長さが4と最も長いBの図形に着目し、問題図にあるBの図形を180°回転させたものを敷き詰める。5×5の模様はそのBを敷き詰める方法は8通りあるが、そのうち図1のア～キについては考えることはできない(エは、Aの敷き詰め方によってエー1とエー2に分けている)。アは①、イは②、ウは③、カは⑦、キは⑧の部分にはめ込む図形がない。また、エについてはエー1とエー2の2通りのAの敷き詰め方があるが、エー1は④、エー2は⑤にはめ込む図形がない。オについては、Bのピースをはめ込んだ後、Aのピース、さらにCのピースの敷き詰め方も決まる。しかし、⑥の部分にはめ込むピースがなくなるため不適である。



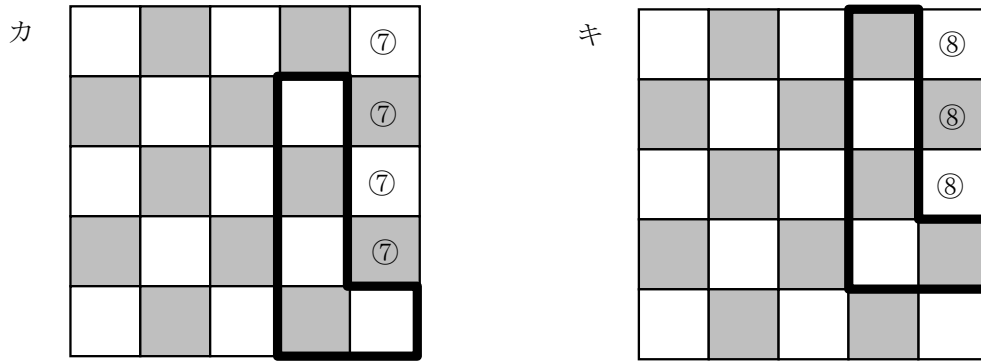


図1

この考察から、Bの配置は図2のようになり、さらに5×5の正方形からなる市松模様は、黒13個と白12個からなるものとわかる。この結果から、選択肢は4と5に絞ることができる。

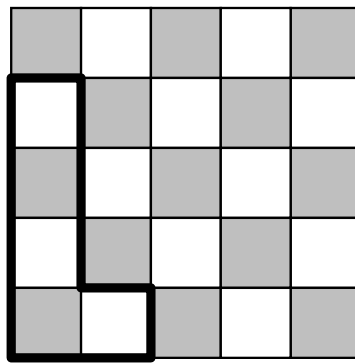


図2

次に、斜線の部分には図3のようにA、G、Hの3つのピースを敷き詰めることができる。

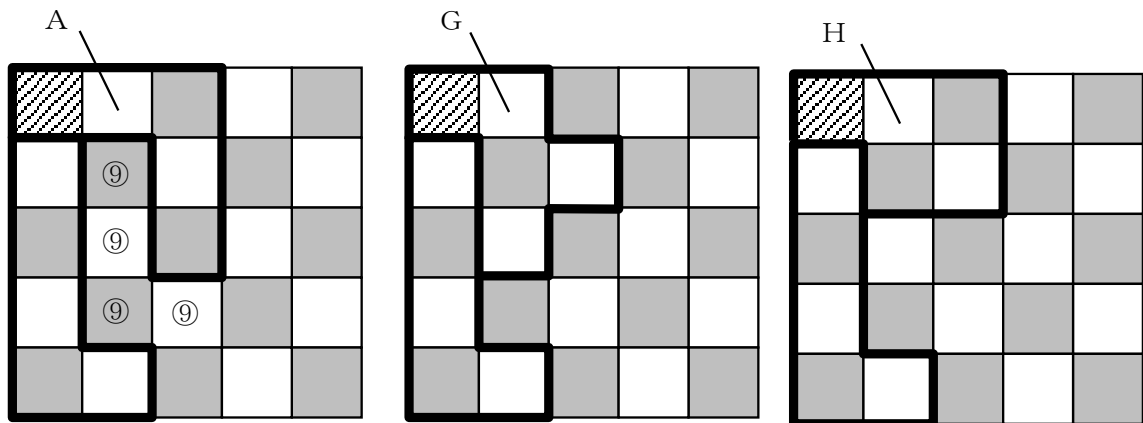


図3

Aを敷き詰めた図3の左の図は⑨の部分に、C、H、DおよびGのいずれのピースも敷き詰めることができない。

Hを敷き詰めた図3の右の図について、続いてAを敷き詰めると図4の4通りが考えられる。図4はいずれも、⑩～⑫に残ったピースをはめ込むことができない。⑬については、Aの次にCを敷き詰

めると、ピースをはめ込むことができない部分となる。

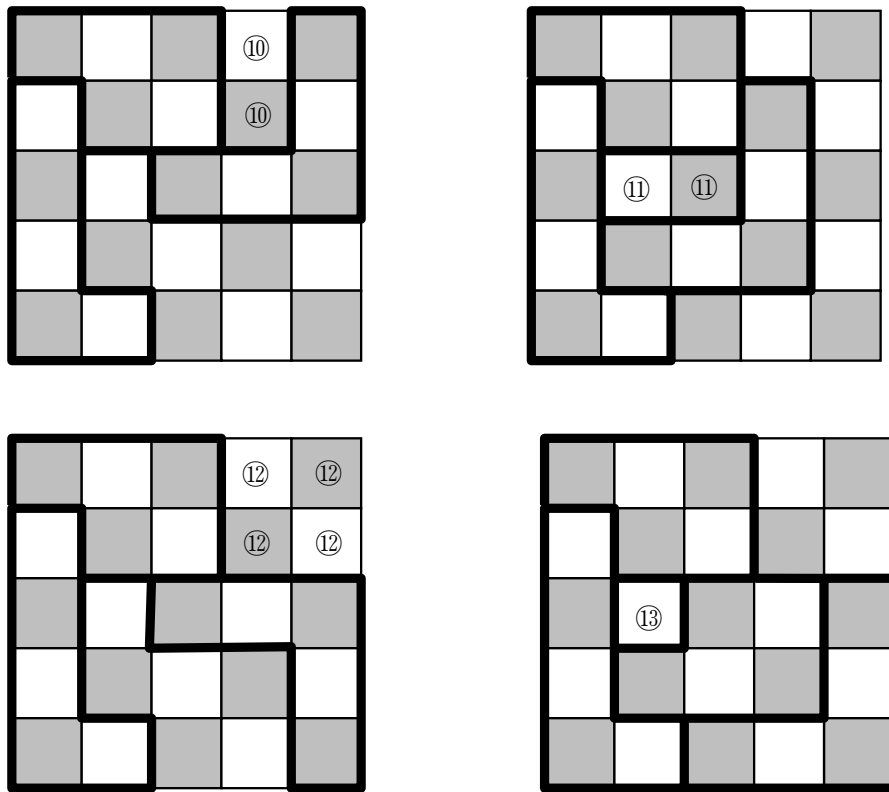


図4

以上より、図3の真ん中のGを敷き詰めた場合のみ考えられ、残りのA、C、Hを入れると図5のように敷き詰めることができる。

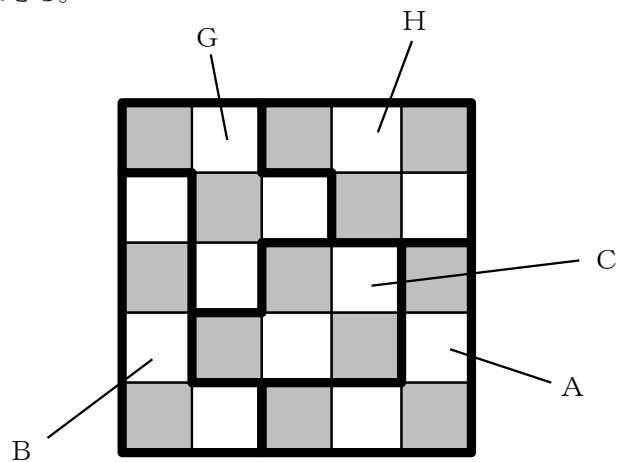


図5

よって、正解は枝4である。